

## 平成30年度事業報告(音楽)

自 平成30年4月1日  
至 平成31年3月31日

### 公益目的事業3(顕彰事業)

#### 1. 「第49回サントリー音楽賞」「第17回佐治敬三賞」(2017年度)の贈賞

第49回サントリー音楽賞の読売日本交響楽団、第17回佐治敬三賞の「三輪眞弘+前田真二郎 モノログ・オペラ『新しい時代』」への贈賞式を7月2日(月)16:00よりサントリーホール・ブルーローズにて開催し、賞金700万円(サントリー音楽賞)、200万円(佐治敬三賞)を贈呈。佐治敬三賞受賞公演の記録映像が披露された。引き続きANAインターコンチネンタルホテル東京で祝賀パーティーを行った。

#### 2. 「第50回サントリー音楽賞」の選定、贈賞

##### ア. 選考過程

- (1) 平成31年1月14日(月・祝)ANAインターコンチネンタルホテル東京(東京都港区)に於いて、選考委員6名により第50回「サントリー音楽賞」の「候補者選考会」を開催した。
- (2) その結果、平成30年にわが国の洋楽の発展に優れた業績をあげた人々として、候補者を選定した。なお、第19回よりノミニーの公表はとりやめることにしており、外部には一切公表していない。
- (3) 引き続き2月24日(日)ホテルニューオータニ東京(東京都千代田区)に於いて、「受賞者選考会」を開催した。選考委員5名による慎重かつ白熱した審議の結果、第50回サントリー音楽賞に、「高関 健氏」が選定された。
- (4) 3月11日(月)に開催された理事会において、正式に第50回「サントリー音楽賞」は、「高関 健氏」に決定した。

##### イ. 贈賞理由

高関健氏の存在は「指揮者とはどのような仕事なのか」という、一見すると単純な問いに対する、ひとつの確固たる答えを成しているように思われる。

楽譜テキストをその原典にまで遡って精査・吟味すること、泰西名曲に安住せず、しかし決して奇をてらうだけでもないプログラミングを構築すること、そしてどんな曲であっても細部まで手を抜かず仕上げる。これら、当たり前のようにいながら容易には成し得ない仕事を、高関氏は粘り強く継続してきた。

2018年においては、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団との第318回定期(ラヴェル「スペインの時」ほか)、第320回定期(ストラヴィンスキー「詩篇交響曲」ほか)、仙台フィルハーモニー交響楽団との「日本のオーケストラ音楽」展(藤倉大「シークレット・フォレス

ト)ほか、そして京都市交響楽団との第 626 回定期 (ブリテン「戦争レクイエム」)、などにおいて、とりわけ顕著な功績が認められた。また一般には単なるルーティンになりがちな年末の「第九」演奏会 (東京シティ・フィル「第九特別演奏会」) においても、毎年新しい工夫を凝らしている点は特筆に値しよう。

派手なパフォーマンスとは無縁の指揮者ながら、高関氏の存在が日本の音楽界のレベルアップに大きな貢献を成していることは、おそらくはオーケストラ好きならば誰もが感じているに違いない。2018 年に特別な「打ち上げ花火」的な演奏会はなかったものの、先に記した様々な演奏会において、常に賞賛すべき高い質を保持している点を鑑みて、サントリー音楽賞を贈賞する次第である。

- ウ. 選考委員 伊東信宏、片山杜秀、長木誠司、榑崎洋子 (2月24日選考会欠席)、沼野雄司、松平あかね の6氏 (50音順)
- エ. 賞金 700万円
- オ. 贈賞 平成31年7月2日(火)東京會館にて佐治敬三賞と併せて贈賞式および祝賀会を開催予定。

### 3. 「第18回佐治敬三賞」の選定、贈賞

#### ア. 選考経過

- (1) 平成29年10月1日～11月30日および平成30年4月1日～5月31日の2回の募集期間に、平成30年(上期、下期)に実施される音楽公演についての応募を受け付けたところ、46企画(計82公演)についての応募があった。応募公演について選考委員7名が分担し公演の視察を行った。
- (2) 平成31年2月22日(金)ANAインターコンチネンタルホテル東京(東京都港区)に於いて、第18回選考会を開催し、選考委員7名による慎重かつ白熱した審議の結果、第18回「佐治敬三賞」受賞公演に、「**第三回 伊左治直 個展～南蛮劇場**」が選定された。
- (3) 3月11日(月)に開催された理事会において、上記公演を正式に第18回「佐治敬三賞」の受賞公演に決定した。

#### イ. 贈賞理由・公演概要

##### <贈賞理由>

摩訶不思議な個展であった。粒ぞろいの曲目と演奏者はもちろんのこと、会場の選定から、チラシのデザイン、プログラム冊子の装丁に至るまで、作曲家の趣味と嗜好が貫徹していた。その趣味と嗜好とは、時代性と空間性の両面での越境である。異種混淆の芸当である。それは当然、祝祭的な、あるいは神事的な表現をとる。人間の本能は安全を求めており、安全とは、いつも通りの日常が続いていることによって、保障される。いつもは入らないものが入り込んで混ざってくるのは、差しさわりであり危険なのだ。たとえば現代音楽の演奏会なのにポサノバ

をやるのは危険だ。そうした差しさわりを正当化しうるのは祭りであり、儀式である。お客さんが来る。マレビトが来る。神様が来る。いつも通りの安全運転ではさばけない。安全はこじ開けられる。そうなったら、非日常の何者かをおもてなしするしかない。宴である。それは越境という行為を否が応にも人々に認めさせる、最高手段なのである。

伊左治直氏の個展は、越境と混淆の宴を、またとないシチュエーションで、完璧なまでに実現した。何しろ会場が、東京は本郷の求道会館である。大正期の建築である、その会堂は、仏教とキリスト教、東洋と西洋の混淆様式を極めて特異に具現している。この歴史的空間の選択によって、伊左治氏は既に勝利していた。

しかも氏の宴は、西洋クラシック音楽と日本伝統音楽の邂逅といったような、「使い古され、類型化した、想定内の危険」ではない。ブラジル音楽があり、中世・ルネサンス音楽があり、雅楽があり、日本の民俗芸能があり……。世界広しと言えども、伊左治直という唯一の個性ならでは、想定外の危険に満ちた越境の仕方が演出されていた。そこには、伊左治を伊左治たらしめる、ブラジルに表徴される「南へのベクトル」が遍在しており、そんな熱帯趣味的異種混淆格闘技戦が、誰しものが宴にのみ込まれ、トリップできるほどの、マラソン・コンサートの時間規模において実現され、圧倒的体験をもたらした。出演者はピアノの高橋悠治氏、作曲家自身をはじめ、19人に及んだが、そのうち誰が良かった云々ということではなく、全員が紛れもなく、たとえばムーミン谷であるとかに匹敵するような「伊左治世界」の完璧な住民として立ち現れていた。このあまりに見事な越境の祭儀に佐治敬三賞を贈呈する。

#### <公演概要>

名称：第三回 伊左治直 個展 ～南蛮劇場

日時：2018年12月2日（日）16：00 開演

会場：求道会館（東京都文京区）

曲目：「酔っ払いと綱渡り芸人」「熱帯伯爵」「アサギマダラと神の少女」

「オウムのくちばし」「八角塔の横笛夫人」

「弦楽四重奏曲『縄』（新作初演）」「空飛ぶ大納言」

「ビリバとバンレイシ」「舞える笛吹き娘」「炎の鳶」「人生のモットー」

出演：伊左治直（打楽器）、太田真紀（ソプラノ）、岡野勇仁（ピアノ）、

織田なおみ（フルート）、加藤美菜子（ヴィオラ）、

亀井庸州（ヴァイオリン）、北島愛季（チェロ）、

迫田圭（ヴァイオリン）、高橋悠治（ピアノ）、田島和枝（笙）、

中村華子（笙）、中村仁美（箏）、藤元高輝（ギター）、

松村多嘉代（ハープ）、三浦礼美（笙）

主催：伊左治直

ウ. 選考委員 伊藤制子、岡田暁生、片山杜秀、白石美雪、長木誠司、船木篤也、  
水野みか子の7氏

エ. 賞金 200万円

オ. 贈賞 平成31年7月2日(火)に東京會館にてサントリー音楽賞と併せて贈賞式および祝賀会を開催予定。

#### 4. 第28回「芥川作曲賞」の選考、決定、贈賞

2017年に初演された新進作曲家の管弦楽作品の中で最も清新かつ豊かな将来性を内包する作品を選定。最終選考はサマーフェスティバル2018の一環として、公開の場で行った。

##### 第28回「芥川作曲賞」選考演奏会

8月26日(日)15:00～ サマーフェスティバルの一環として開催。

第26回受賞記念委嘱の渡辺裕紀子氏作品を初演したのち、候補作品を演奏した。

演奏終了後、3人の選考委員が公開による選考を行って、1曲を選定し、第28回「芥川作曲賞」(50万円)を坂田直樹氏作曲の「組み合わせられた風景」に決定、贈賞した。

選考委員は、鈴木純明、野平一郎、菱沼尚子の3氏。選考会司会は伊東信宏氏。

なお、受賞作曲家には新作を委嘱(委嘱料100万円)し、完成後、当財団主催の演奏会で初演する。

#### 公益目的事業4(助成事業)

##### 1. 推薦コンサート活動

毎月1回、東西で選考会を開き、日本人作曲作品をとりあげたコンサートを推薦。

推薦されたコンサートは、ホームページ、新聞などで告知し、抽選で読者を招待する。

今年度は28公演、計850名の音楽ファンに日本人作品との出会いを提供。

##### 2. 楽器貸与事業

###### ア. 学生向け楽器貸与事業

世界的文化遺産である弦楽器名器を保全し次世代に継承するとともに、若手音楽家の育成、クラシック音楽の発展に貢献することを目的に、毎日新聞社主催の全日本学生音楽コンクールバイオリン部門と提携して、「サントリー芸術財団名器特別賞」を設定している。

5年目となる本年度は、横浜みなとみらいホールにて実施された同コンクール、中学校の部(12月2日)、高校の部(12月3日)にて、選定委員が1名の受賞者および推奨ヴァイオリンを選定し、3年間の無償貸与を実施した。

【第5回サントリー芸術財団名器特別賞受賞者および貸与楽器】

中野 りな (GENNARO GAGLIANO 1774年製作)

###### イ. 演奏家向け楽器貸与事業

世界を舞台に活躍する若手日本人演奏家に5年間貸与する事業を昨年度から開始し、以下の通り貸与した。

【貸与者および貸与楽器】

米元響子 ANTONIO STRADIVARI (1727年製作 ヴァイオリン)

田原綾子 PAOLO ANTONIO TESTORE (1728年製作 ヴィオラ)

岡本侑也 PIETRO GIACOMO ROGERI (1710年製作 チェロ)

3. その他の助成

ア. 活動助成

- (1) 音楽文献目録委員会 音楽文献目録出版に対して
- (2) 東京国際ヴィオラ・コンクール サントリー芸術財団賞 (邦人作品の優れた演奏)
- (3) ミュージック・フロム・ジャパン 国際音楽祭開催に対して

イ. 運営助成

- (1) 日本作曲家協議会
- (2) 日本現代音楽協会
- (3) 日本演奏連盟

以 上